

ひだか野あそびプロジェクト③ ～家族で冬の思い出作り～

趣旨 スノーシューハイクや創作活動を通して、身近な自然や体験活動に興味・関心を広げ、積極的に自然に関わろうとする態度を養う。

企画運営のポイント

1. 日高の地域を活かした「地域性」と冬ならではの「季節性」を意識し、ボランティアが主に企画・運営を行った。
2. 自主企画ボランティアと担当職員との打合せや実地踏査を何度も重ね、親子で自然に親しみ、学びが深まるような体験活動を設定した。

期日 令和7年2月9日（日）

対象 幼児（4歳以上）～小学3年生とその保護者

人数 6家族 計19名（内訳：幼児6名、小学生4名、保護者9名）

内容

6月9日（日）【運営：自主企画ボランティア（大学生4名）】

- ① 開会式
- ② 冬の日高を大冒険！スノーシューハイク
- ③ 思い出をカタチに！フォトフレームづくり
- ④ 閉会式

参加者の声

- ・フカフカの雪でスノーシューを体験できて良かった。子どもたちのためのよい体験と経験をさせてもらい、ありがとうございました。
- ・子どもたちに自然と触れ合う機会を与えられて良かったです。空き時間も子どもたちの相手をしてもらえて嬉しかったです。
- ・学生ボランティアが時間をかけて作った事業ということが伝わりました。大変だったと思います。気持ちが伝わる事業ができる人は、なかなかいません。素晴らしかったです。

企画・運営した大学生ボランティアの声

- ・子どもたちの枠にとらわれない想像力と発想力に感銘を受けました。
- ・幼児を対象とした1日を通しての事業の企画など、沢山経験をすることができました。
- ・先輩ボランティアから子どもたちが楽しめるためのネタなど沢山見習うことができました。

【成果】

- ・事業アンケートにおいて、「子どもたちに自然と触れ合う機会を与えられて良かった」や「フカフカの雪でスノーシューハイクを体験でき、子どもたちのためのよい体験と経験をさせてもらった」という声から、日高の冬の大自然を満喫するとともに、自然に対する興味・関心を広げるきっかけとなった。
- ・事業を企画した大学生ボランティアからは、「子どもたちの枠にとらわれない想像力と発想力に感銘を受けた。」「幼児を対象とした1日を通しての事業の企画など、沢山の経験をする事ができた。」という声があり、大学生のボランティア活動の実践力と企画力の向上につながる場となった。

【課題】

- ・活動と活動の間の時間をどうするかなど、時間配分等を意識する必要がある。

